

# 1人1台端末環境を基盤とした授業改善

笠岡市立笠岡小学校 6年

2024.11.19

岡山県教育委員会  
教育情報化推進室

## 自立した学習者を育成するための「学習のてびき」

10月に「[令和6年度リーディングDXスクール事業](#)」指定校の笠岡市立笠岡小学校で、第1回公開授業が開催されました。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現するため、笠岡小学校で取り組んでいる「[単元内自由進度学習](#)」をヒントに、自立した学習者の育成のポイントについて考えていきたいと思えます。

文部科学省のWebサイト「[StuDX Style](#)」に掲載されている「[GIGAスクール構想×個別最適な学び](#)」と題した上智大学 奈須正裕教授のインタビューにおいて、「これまでの授業を変えていくためには何から見直せばよいか」の質問に対して、奈須教授は次のように答えています。



「教師と子供の間情報格差がない状態を作ってから、単元をスタートすることではないでしょうか。毎時間、教師が導入をし、『めあて』を黒板に書いて初めて、子供がこの時間何をするかわかるような授業では、主体性も学習の自己調整も、育つはずがありません。(続く)」

上記の内容を「教える授業」の授業観で受け止めると大きなインパクトがあるのではないのでしょうか。教師と子供の間情報格差がない状態にする具体的な手立ての一つに「学習のてびき」の共有があります。

右は笠岡小学校6年社会科の「学習のてびき」です。単元の初めに、学習の流れやめあて等をクラウド上で児童と共有して情報格差の課題を解消し、各児童が工夫して学びに向かうことができる環境を6年団の担任(若手と中堅)で試行錯誤しながら整えています。

その内容は、指導案の単元計画を児童用にアレンジするイメージですが、特筆すべきは各めあてを、児童が持つ教科書に準じて設定しているところです。

社会	単元名 戦国の世の統一	(全8時間予定)
	学習問題	信長や秀吉は、どのように戦国の世を統一していったのだろう。
	社会科の視点	○どんな場所? ○どんな人? ○今の時代とのつながりは? ○他の国との関わりは? ○今後どうなるかな? ○その当時の人々の様子は? 思いは? など
学習形態	学習の流れ	
一斉	1	○戦国時代の人々の様子や生活の様子について考えよう。
	2	○戦国大名は、どのような戦いをしてきたか考え、学習問題を立てよう。
	A	○戦国時代、日本は外国とどのような関わりをもっていたのだろう。(p130~131) ・どの国とどんな関わりがあったか調べよう。 ・誰か、どのように、何を、伝えたいだろう。(彼に日本からは?) ・日本はどんなふうに変ったのだろう? それとも変わらなかった?
	ポイント	B ○織田信長はどんな人物で、どのような世の中にしようとしたのだろう。(p132~133) ・信長は具体的にどんなことをしたのだろう。※天下統一のために!! ・なぜ、天下統一を成し遂げることができた? ・信長はどんな世の中にしたかった? →だから、いろんなことをしたのでは?
	ポイント	C ○信長の天下統一の事業はどのように秀吉に引きつがれたのだろう。(p134~135) ・秀吉は具体的にどんなことをしたのだろう。※天下統一のために!! ・秀吉は具体的にどんなことをしたのだろう。※天下統一のために!!
個別	ポイント	

学習のてびき (一部) スプレッドシートで作成

教科書はいつも子供たちの手元にあります。コロナ禍においては「[学校や教師からの指示・発信がないと、『何をして良いか分からず』学びを止めてしまうという実態](#)」が顕在化しました。一人でも教科書を活用して文章や資料等を読み取る学び方は、教科を問わず、しっかりと身に付けてほしい習慣ではないでしょうか。そもそも教科書は、各発達段階で自学自習できるように構成されていて、多くの場合、学習のめあても示されています。笠岡小学校6年では、児童がめあても教科書から読み取りながら自立的に学ぶことができるよう、本単元では「学習の進め方」を次のように示しています。

- ・教科書をよく読む ←まずここから!!!
- ・本文の用語や重要な箇所を線を引く。
- ・写真や年表などの資料に書き込みをする。  
(本文の関連箇所と矢印で結んだり、気付いたことを書いたりする。)
- ・調べたことや考えたことをノート、もしくはドキュメントへ整理する。

次号では更に、ICT活用×教科書活用について深めます。